



市民総参加で健康づくり

5月30日、市民総参加型の健康づくりイベント「チャレンジデー」が行われました。このイベントは毎年5月最終水曜日に、午前0時から午後9時までに継続して15分間運動を行った住民の参加率を人口が同規模の自治体と競い合います。今年の実戦相手は、パークゴルフ発祥の地と呼ばれ、スポーツも盛んに行われている北海道幕別町でした。



5月24日、幕別町の飯田晴義町長と電話でエール交換をする門脇仙北市長。

市内各地でいきいきと

メイン競技として仙北市民交流グラウンドゴルフ大会のほか、市内では早朝ウォーキングやラジオ体操、太極拳などが行われました。また、市内のスポーツクラブではスロートレーニングや卓球、ソフトバレーボールなども行われ、参加者が汗を流しました。



落合運動公園周辺約1.7kmを30分かけてウォーキング。



参加者約110人が、1打1打丁寧に打つとともに、参加者同士の交流を深めていました。



生保内小学校の全校児童が体育館で英語の歌を歌いながらダンス。



運動した後は、皆さんに報告いただきました。



太極拳かくのだてと太極拳田沢湖・西木の合同による武術太極拳交流会。

惜しくも幕別町におよばず



VS



対戦自治体である北海道幕別町は今年で5回目の参加。参加率は、59.5%（参加人数16,086人／人口27,044人）で、残念ながら対戦自治体の参加率にはおよびませんでした。

今年で8回目の参加となる仙北市の参加率は、55.2%（参加人数14,883人／人口26,946人）で金メダル（参加率55%以上）を獲得することができました。

まちづくり日記

No.133

『愚痴と批判、希望と応援』

仙北市長 門脇 光浩

長崎県大村市を訪ねました。戊辰戦争を縁に、現在も両市の交流活動は活発に続いています。記念講演・記念式典と続き、夜は懇親会です。会場は全国的に有名な「観光農園おおむら夢ファーム・シユシユ（山口成美社長）」。会が始まる前、お忙しい中、山口社長からお話をお伺いすることができました。

「この辺りは町部に隣接した農村地帯です。一昔前は、観光客などは誰も来ない素通りの場所でした。素通りの場所をストーリー（物語）の場所に変えたいと思っています。ブドウやナシ、イチゴを栽培し、くだもの狩りでハウスを丸ごと開放しています。これだと収穫もバック詰めも出荷作業も不要です。お客さまは好きな実をとり、美味しいと食べて喜んで、それで入園料まで払ってくれます。80人のスタッフは定植や栽培管理だけで、あとはレストランやパン工房、工芸教室、会議のセッティング、結婚式などサービスに集中できます。みんな来園者の笑顔が見たいんです。そのために必要な工夫も楽しい作業です。抱える課題の数だけビジネスチャンスがあると

思っています。たった一度の人生ですから、私もニコニコ笑顔で年中夢求がモットーです」と。事業を始めてから20年といては、決して順風満帆な道程ではなかったとのこと。笑顔の陰に多くの苦労があったことは想像に難くありません。懇親会では、大村市の方々とたくさんお話ができました。皆さん夢ファームを自慢していて、何だかとても幸せな気持ちになりました。いえ、夢ファームだけではなく、「大村市のごが好き」というお話もたくさんありました。ふるさと自慢、頑張っている人の応援…、やはり素晴らしいまちです。そういえば、曾野綾子さんのエッセーで、「愚痴と批判から生まれるもの、希望と応援から生まれるもの」の違いを読んだ記憶があります。これは地方創生・まちづくりでもいえることです。

仙北市民2万7千人が、こそって「まち自慢と頑張る人の応援」を始めたなら、このまちは、もっともっと幸せで満ちあふれるはずですよ。

かくのだてフィルムコミッション

ロケーションだより

Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション
(仙北市観光課内) ☎ 43-3352
<http://kakunodate-fc.jp/>

今年度より、市観光課の新入職員がフィルムコミッション(以下FC)担当になったことは前回お伝えしましたが、業務を早く覚えてもらうためにFC組織内の勉強会を開き、活動する上で必要なことを伝えました。地域の撮影に関わる支援を一括して受けること、製作費などの資金提供をしないこと、作品内容を問わないことなど、誤解や間違った認識を持たないよう特に注意して指導しました。

その後、実際に撮影が行われた武家屋敷通りに繰り出しました。山田洋次監督の時代劇映画「たそがれ清兵衛」隠し剣鬼の爪」や、朝原雄三監督の映画「釣りバカ日誌15」の撮影地となった場所を案内したり、秋田市出身の俳優、佐々木希さん出演のテレビCM「ロッテ」の撮影には



かくのだてFC 新任担当者研修の様子。

(会長 坂本 洋)

地元エキストラを2日間拘束したにも関わらず、放送には全く映っていなかったという笑えないエピソードや、300人ほどのエキストラを求められた高嶋政宏さん主演のTVドラマ「みちのく麵食い記者 宮沢賢一郎」での苦労、高橋英樹さん主演の「捜査検事 近松茂道」では独特の緊張感の中での撮影だったことなど、それぞれ作品の支援について話しました。担当職員も勉強会を終え、FCの活動について把握することができ、業務の内容に興味を持ってくれたようです。これからもこのような勉強会の機会を設け、FCについての認識を高めていきたいと思います。